



文理融合「環境科学部」から 多彩な舞台で活躍する 人材を輩出

長崎大学は、江戸時代の医学伝習所に始まる医学部が日本最古の160年の歴史を誇り、教育学部、薬学部、経済学部も創始から100年を超えるなど、長きにわたり日本を支える人材を輩出してきた伝統ある地方総合大学だ。さらに、現状に満足することなく時代の要請に応じて特色ある教育を打ち出し、常に社会が望む人材を育成・輩出し続けている。

未利用温泉熱で発電 地域活性化にも貢献

海や山、温泉、希少野生動物植物……長崎は多様な環境資源に恵まれており、充実したフィールドワークで地域への理解を深め、課題を発見・解決して地域活性化策などを探り、地域に還元している。

その中の一つは、環境科学部が長崎県、雲仙市と協定を結び、10年前から取り組む「Eキャンレッジ推進事業」。ユネスコの世界ジオパークに認定された島原半島全域を持続可能な社会づくりのための教育拠点と位置づけ、半島の観光活性化や小浜温泉のバイナリー発電などいくつかの事業に、研究者や学生が深く関わっている。

小浜温泉は豊富な湯量で多くが未使用になっている上、浴用には温度を下げるのに苦慮している。バイナリー発電は、沸点が低い熱媒体を泉源の熱水で沸騰させてタービンを回して発電し、適温になった温泉水を浴用に使い、地球の熱エネルギーを無駄なく活用する。現在、小規模発電が実現し、民間企業により事業化されている。

海外学生と双方向で交流 育つグローバル人材

環境の問題は地球規模で捉える必要があり、異なる価値観を持つ多様な人と共働で解決への糸口を探ることが求められる。それに必要な力を養うため、環境科学部では国際交流の実践プログラムを用意して、グローバル人材育成を行っている。これまでに、米国、タイ、台湾、オーストラリア、スウェーデンの5か国・地域の6大学と学生交流協定を結び、留学生を双方向で派遣している。

環境科学部からの留学は、3か月～2週間、現地で英語による座学のほかフィールド演習に参加し、討論を重ねて様々な意見や価値観があることを学び、

国際的な視野を広げている。国際交流で身に付いた視点・視座は、地域の環境など様々な問題解決に生かされる。交流協定は、新たに英国の大学とも締結準備を進めている。

国際ワークショップも活発で、今年5月には米国・ハワイ大学マノア校の教員とカリフォルニア大学バークレイ校の学生と共同でグラバー園周辺を調査し、長崎の街づくりの課題を検討。環境にやさしくより多くの観光客を呼び寄せられる観光デザインを長崎市に提案した。

急速な経済発展に伴い、PM2.5などによる大気汚染が深刻な中国からは、日本の環境技術を学んで自国の公害を克服しようという留学生が来ている。“公害先進国日本”には多くの教訓が残されており、かつての日本の産業公害を知らない世代の日本人学生にとっても、環境問題を考える視座を高める良い刺激になっている。

多岐にわたる就職先 広がる長大ネットワーク

いま、環境への配慮なしには企業も行政も活動を行えない。環境科学部の卒業生は、学部で培った知識を生かして多様な分野で活躍している。

就職先は、環境関連企業はもちろんのこと、製造業、建設業、運輸業、卸小売業、金融業、広告業、公務員など極め

学部・大学院情報

- ◎学部
 - 多文化社会学部、教育学部、経済学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、環境科学部、水産学部
- ◎大学院
 - 教育学研究科、経済学研究科、工学研究科、水産・環境科学総合研究科、歯歯薬学総合研究科、熱帯医学・グローバルヘルス研究科、国際健康開発研究科

て多彩である。手厚い就職支援もあって2016年度の内定率は98%を超えた。

高校の頃から環境問題に関心があり、文理融合という理念に魅せられて入学したという一期生の男性は、文化財保存協会の技術員として長崎・出島復元工事の設計管理に従事。また、風力や原子力など複数のエネルギーをミックスさせるシミュレーションを行っていたという女性(2016年卒)は、民放キー局にアナウンサーとして就職するなど卒業生の活躍が目覚ましい。

伝統ある学部が持つ強固な人脈に加え、時代を先取りチャレンジしてきた環境科学部が切り開いた新たな分野から長崎のアイデンティティーを持つ人材が頭角を現し始めた。広がり続ける長崎大学のネットワークはその勢いを増すばかりだ。

学問の枠組みを超えて 環境分野を幅広く学習

「環境汚染、天然資源の枯渇、地方の過疎化など、現代社会の問題は深刻度を増しており、様々な観点から問題点を捉えて、複眼的な視座で解決する知識と技術が求められる。とりわけ、環境問題は社会のあらゆる分野に関わり、環境保全がビジネスにもなっている」と環境科学部の山下樹三裕学部長は語る。

環境科学部は、地球温暖化や生物多様性の消失など環境への意識が高まり始めた1997年、国立大学で初めての文理融合学部として発足し、今年創立20年を迎えた。環境問題の改善には、既存の学問の枠組みを超えたアプローチが必要で、社会学・行政学・経済学・工学・理学・農学・倫理学など幅広い専門の中から、環境に関する分野を集約して学び、修得した知識・技術を幅広く生かせる人材を育てる。

文系・理系の環境政策と、理系の環境保全設計の2コースがあり、入学選抜試験は



環境科学部 学部長
山下 樹三裕氏

文系受験と理系受験のどちらでも選択でき、入学後1年次は文理の区別はなく、2年次から各コースに分かれ、入学試験時の選択に関係なくどちらにでも所属できるのが特色。また、所属後も横断科目(選択コース外の科目)を履修し、より幅広く環境問題を学べる。卒業生は、「フィールドワークが充実しているいろんな経験ができ、在学中に自分の本当にやりたいことが見つかる」など評価している。

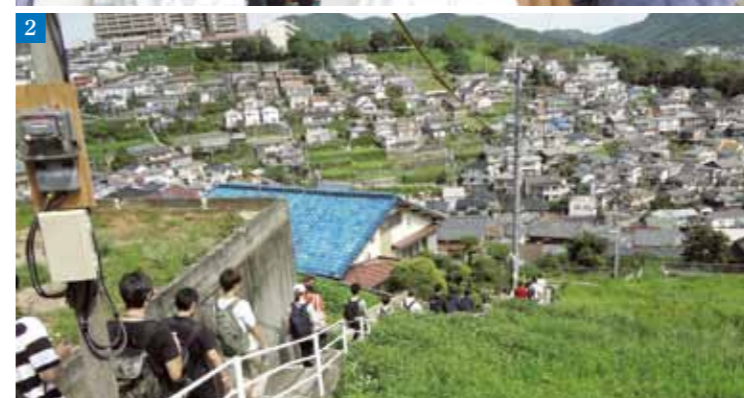
アジア環境レジリエンス 研究センターが始動



に対する「地域レジリエンスモデル」を産学官連携で構築。併せて、学部・大学院一貫の文理融合教育プログラムを開発・実施して、環境課題の解決に貢献する実践的能力を備えた人材を育てる。

具体的な活動は、▽未利用地熱やバイオマスの活用、▽地下水汚染や水域の富栄養化の原因となる窒素化合物などを使ったバイオエネルギーや魚類養殖のエサなどの開発、▽微生物の力を活用して産業廃棄物や排水からレアメタルを回収する技術の開発、▽火山・気象災害に対する危機管理モデルの開発、▽越境大気汚染に対する評価と対応策提言——など多彩に取り組む。

研究の成果は広く発信し、地域社会を対象にした環境教育(シンポジウム、公開講座)も行う。さらに活動は、大気や水質汚染、豪雨・洪水災害、未利用バイオマス、エネルギー不足などの課題を抱えるアジア各国へと展開し、アジア地域の環境回復をリードする。



1 小浜温泉のバイナリー発電所を訪れ、地域における課題や取り組みを学ぶ 2 長崎市の斜面市街地を対象に、まちづくりの現状や課題を学ぶフィールド演習 3 グローバル人材育成のためのサマースミナー。環境科学部生と留学生が一緒に英語で学ぶ 4 環境科学部が独自に設置しているキャリアプラザでは、就職相談や模擬面接も行う



長崎大学環境科学部は 平成29年で創立20周年



長崎大学環境科学部 創立20周年記念事業のご案内

平成9年10月に発足した環境科学部は、平成29年で創立20周年を迎えます。これを記念して長大祭期間中に、記念事業を行います。卒業生の皆さまはもちろんのこと、在校生の皆さま、関係者の皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

- 平成29年 11月4日(土)
- 日時 場所 (緑友会総会) 14:30～15:30 } 長崎大学文教サイエンスホール (記念講演会) 16:00～17:30 } (長崎市文教科 1-14)
 - (記念祝賀会) 18:30～21:00 | ホテルサンプリエール (長崎市元船町 2-4)

※記念講演会は、一般の方も自由にご参加頂けます。

詳細は、長崎大学環境科学部ホームページで随時お知らせいたします。

<http://www.env.nagasaki-u.ac.jp/>

8月より
記念祝賀会
事前予約
受付開始!